

平成21年4月1日

第61号

関東の森林から



国民の森林 国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



敷島公園と赤城山連峰（群馬県前橋市）

（撮影：群馬森林管理署 戸部悦男）

美しい森林づくり

保護林の保全・管理について

計画部長 藤江 達之

私の視点

自然に生かされて 「人も自然の仲間」

福島県もりの案内人の会

永田 莊三 氏



保護林の保全・管理について

計画部長 藤江達之

近年、生物多様性の保全が重要な課題となっていますが、国有林においては、森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存等を目的に、保護林を各地に設けています。

保護林制度は、史跡名勝天然記念物法（大正8年）や国立公園法（昭和6年）に先駆けて大正4年に発足し、平成元年に再編・拡充された国有林独自の仕組みです。

関東森林管理局においては、156カ所、20万ヘクタール（管内国有林野面積の17%に相当）を保護林としています（表参照）。このうち、森林生態系保護地域は、我が国の主要な森林帯を代表する原生的な天然林等の区域であって一定規模のものを対象としており、飯豊山周辺、利根川源流部・燧ヶ岳、奥会津、小笠原諸島等に設定しています。

また、植物群落保護林は、地域の自然を代表し保護が必要な群落や歴史的・学術的価値のある個体の保護

を目的に、ブナ、ミズナラ、シヤクナゲ、スギなど多くの種・地域で設定しています。

保護林の取扱いについては、遷移途中の植物群落を保護対象とするものは、その現状維持に必要な森林施業を行うことができるなどとしているほかは、モニタリング等のために必要な場合を除き、原則として人為



朝日山地森林生態系保護地域



小笠原諸島森林生態系保護地域（父島）

を加えず、自然の推移に委ねるものとしています。しかしながら、森林は時間とともに生長・枯死する植物が主たる構成要素であり、的確な保護のためには、状況の変化に応じ順応的な管理を実施していくことが必要です。例えば、近年、各地でシカによる樹皮はぎやナラ枯れが発生しているほか、人の踏みつけによる影響や保護対象種の次世代の更新が懸念されるケースもあり、これらへの対応を検討する必要があります。

また、小笠原では、外来生物により固有の生態系に大きな影響が生じており、外来種の駆除を計画的に進めることとしています。

このようなことから、平成19年度より、保護林の現状を把握して設定目的に照らした評価を行い、きめ細かな保全・管理を行うこととして、

保護林の概要(平成21年3月現在)

(面積単位:ha)

種 類	箇所数	面 積
森林生態系保護地域	8	164,825
森林生物遺伝資源保存林	4	6,202
林木遺伝資源保存林	39	1,777
植物群落保護林	95	20,221
特定動物生息地保護林	5	7,084
特定地理等保護林	1	927
郷土の森	4	1,089
計	156	202,125

「保護林モニタリング調査」を進めています。調査項目は保護林の種類によって異なりますが、植生、動物、利用動態等について各種資料と現地における調査を行い、今後の課題を検討・整理しています。

ただし、森林生態系は多岐にわたる要素により構成され、広域にわたる区域を詳細かつ網羅的に把握することは難しい面があり、調査の進め方や取りまとめ方法にも課題があります。今後、効率的なデータ把握や的確な評価手法を確立しつつ、保護林の設定目的に応じて必要となる保全・管理を進めていくことが重要と考えています。



猛禽類モニタリングWGの報告

自然環境モニタリング会議、企画運営会議の開催
 2月8日(日)、みなかみ町役場新治支所において、平成20年度第2回自然環境モニタリング会議が開催されました。今回は、これまでの赤谷プロジェクトの活動成果を赤谷プロジェクト地域協議会、(財)日本自然保護協会、サポーター、関東森林管理局などの関係者一同へ報告し、情報共有を図ることとしました。



2 「赤谷の森」自然散策会の開催
 2月15日(日)、赤谷センター主催で「赤谷の森」自然散策会を一般の方々を対象に開催しました。内容は、冬の「赤谷の森」を楽しんでもらうため、関東森林管理局OBの長島氏が冬芽の見分け方を解説した後、「いきもの村」で冬の森の様子を観察しました。

1 環境教育への取組
1 新治小学校での環境教育の実施
 昨春秋、地元小学生に旧三国街道でセンサーカメラ設置の実習を行いました。が、「関東の森林から」第57号参照)、2月12日(木)、新治小学校において、その撮影結果を交えて赤谷プロジェクトの取組を説明しました。これを機会に身の回りの森に関心をもってもらいたいだけだと思います。

ンググループの活動成果、南ヶ谷湿地の調査などについて、各担当者及びサポーターが報告をしました。
 また、3月19日(木)、みなかみ町中央公民館において、平成20年度第2回企画運営会議が開催され、各ワーキンググループ毎に短期目標を設定しました。これらの取組の成果はこの地域における国有林野の取扱いについて定める次期地域管理経営計画へ反映させていきたいと考えております。

3 新治中学校の総合学習への協力
 3月6日(金)、新治中学校で行われた総合学習の一環として、赤谷プロジェクトの取組を紹介しました。昨春秋に開催された「環境教育・関東ミーツイング2008AKAYA」でも地元住民の周囲の森林や里山の歴史についての関心が低いとの問題提起があったところですが、「関東の森林から」第58号参照)、今後地域や地元教育機関等と連携して環境教育への取組を進め、長期的には地元住民に地域の歴史や森林について

参加者からは、「一見何もない冬の森でも変化に富んだ面白さがあることに感動した。」との声が聞かれました。



冬芽の見分け方を解説



センサーカメラの結果を解説

4 高原千葉村自然教室指導者講習会の開催
 3月17日(火)、「いきもの村」で千葉市高原千葉村職員と千葉市の中学校の先生を対象に、自然教室指導者講習会を開催しました。赤谷センターで実施している「いきもの村」での自然体験教育のねらい・教材・進め方などを紹介し、千葉森林管理事務所と上下流連携(「関東の森林から」第52号参照)、した千葉市の中学生を対象とする環境教育の取組を進めています。

て関心を高めてもらうことができればと考えております。

森林官からの おたより

伊豆森林管理署 狩野森林事務所

森林官 谷田部 彰久

当森林事務所は、狩野川が流れる静岡県東部の伊豆半島のほぼ中央に位置する伊豆市（旧天城湯ヶ島町）にあり約2,900畝の国有林を管理しています。

部内には「天城山太郎杉」や「滑沢溪谷」をはじめ、「浄蓮のハイコ

モチシダ」「茅原のエドヒガンザクラ」「本谷お礼杉」「八丁池」など貴重な自然、植物などが数多く、また、伊豆市の観光名所でもある「浄蓮の滝」「旧天城山隧道」などもあり、四季を通して多くの観光客が訪れています。



八丁池

「天城山太郎杉」は、樹齢が推定450年以上、高さ53m、幹周り13.6mで静岡県の天然記念物に指定されており、伊豆半島を代表するスギの太木で長年風雪に耐えてきたものです。その姿は周りの樹木を圧倒し、『森の巨人たち100選』にも選ばれています。太郎杉には滑沢溪谷（天城山を源とする本谷川の支流で伊豆最大の安山岩の一枚岩の上を清流が流れる溪谷）入口から、遊歩道を溪谷沿いに歩くか、もしくは林道で行く事ができ、気軽に見ることが出来ます。また、「八丁池」は標高1,170mにある天城火山の火口湖で、池の周囲が

八丁（約870m）あることからその名前が付いたといわれ、また、池の周囲をスズタケが覆っているところから、別名アオスズの池とも呼ばれています。この八丁池の周囲のブナ林は典型的な太平洋型のブナ林とされ、ヒメシヤラやカエデなどと混交しており、貴重な生態系、景観を備えていることからブナ群落保護林に指定しています。

昨年の10月には、八丁池ブナ群落保護林観察会が開かれ、参加者は貴重なブナ林を堪能していました。

部内は、ほぼ全域保安林に指定され、国立公園特別保護地をはじめ、国立公園に指定されている部分も多く、沢山の観光客が訪れる場所が国有林内にあり、入林者が多いのが特徴です。



ブナ群落保護林観察会

このことから、環境と景観に配慮した施策が必要と考えています。現在、基幹作業職員2名と共に事業を実行していますが、近年ニホンシカによる被害が著しく、その対策として設置した防護柵を維持するための点検・修理が事業の多くを占めるようになっていきます。

また、シカの防護柵を設置した植林地に、野兔の被害が始め、せっかく順調に育ちはじめた苗木に被害を及ぼしています。野兔対策として忌避剤の散布も実施していますが、効果が長続きしないため苦慮しているところです。

部内には貴重な自然環境が多く残っています。それらを今後も適切に保存しつつ、計画的かつ効率的で成果のある業務を実施して行きたいと考えています。



天城山太郎杉

私の視点

自然に生かされて

「人も自然の仲間」

福島県もりの案内人の会 永田 莊三

森林に親しみ、森林から学び自然のなかで、たくさんの方の命に出会い、自然の不思議に気づき、自然の仕組み、生きる力を学びます。

私たち「もりの案内人」と、一緒に森林の中を歩いてみませんか。森林の不思議を見て、手でさわって、においをかいで、森林の声に耳を傾けて下さい。森林の中ではたくさんの動・植物に出会うことが出来ます。木のぬくもりを感じながら、世界にひとつしかない作品を作りませんか。材料は除伐、間伐材を利用しています。豊かな森林を育てるために、森林整備や植樹の手伝いをしています。

森林づくりや自然観察会を通して、多くの方々と一緒に森林の大切さを伝えていく森林学習の協力者です、と声高らかに呼びかけているのが、もりの案内人です。

さて、「福島県もりの案内人の会」とは、県民の皆さんと共にもりの未来のあり方を考え、もりと共生する自然環境づくりをめざす団体です。平成9年度より福島県が実施して

いる「案内人養成講座」を修了し県知事から認定された者を中心に組織する団体であり、平成19年4月にNPO法人を取得、一層の充実を図りながら、小中高学校の森林環境学習をはじめ、公民館等の生涯学習、企業からの依頼をも受け、毎年2万人を超える方々と、自然体験を通して、



会津裏磐梯デコ平での森林ガイド

人も自然の仲間であることを学んでいたでいます。

ここまでは会の宣伝であり、「手前みそ」ですが、最近森林の中に入っ

て感じることは、自分が好きだから

一生懸命に自然解説だけでよいのか。

木の名前、花の名前とその話題、

今日は楽しかっただけで、本当のも

りの案内だったか、本当の森林とは

何だろう、自然とは何か基本が一つ

二つと抜け落ちていないだろうか、

何故ブナの木か、ブナ科のブナの木

と同じミズナラの木その他仲間の木

があるが、どうして差別されるのか、

同じ落葉高木樹である。杉、檜は花



郡山市蓬瀬公園での森林ガイド

この木がないと家も建たない。

このことを具体的に、理解するための動機付けに昨年より国有林野保護監視員のボランティアに参加させていただいた。案内のついでにパトロールするのでなく、パトロールを目的に入山すると、森林の見え目の違いに、ふと気付いた新しい発見だと気付いたのには、驚いている。

木を切るな、手を入れるな、伐れ、手を入ると少々ヒステリックな昨今であるが、物としてみる森林と人の心で見る森林の区別できる自分に向けて、明日も森林の中に多くの方々と笑顔で案内人と監視員の役割に励みたい。



県民の森での高校生への森林ガイド

管内の百名山 谷川岳

谷川岳が、首都圏から夜行日帰り登山が可能な山域として多くの人々に親しまれるようになったのは、昭和6年の上越線清水トンネルの開通に始まります。

昭和35年には、土合から天神平に至る谷川岳ロープウェイが完成し、スキー客や家族連れのハイキング客も増え、更には、昭和60年に開越高



谷川岳の名所「一の倉沢」

速道路（練馬〜長岡間）が全線開通するなど、アクセスの便利さから「近くて良き山」と言われ、四季を通じて登山者や観光客を迎え入れています。

年間入込客数も29・8万人（19年度登山者4万人、ロープウェイ利用客25・8万人）を超えています。

ちなみに、谷川岳は、トマの耳（1,963㍎）、オキの耳（1,977㍎）と呼ばれる二つの頂上からなり、沼田市方面から見る双耳峰は大変美しい山並として望むことが出来ます。

谷川岳でも特に、白毛門〜朝日岳〜谷川岳を馬蹄形に結んだ山域の、湯桧曾川を挟んで東面と呼ばれるマチガ沢や衝立岩のある一の倉沢を始めとする区域には、氷河期の浸食や雪崩等で浸食された急峻なスラブ（一枚岩）や大岩壁群がそびえ立ち、剣岳や穂高岳とともに日本三大岩場の一つに数えられています。

これら一の倉沢衝立岩を始めとする岩壁に挑むロッククライマーが数多く訪れることから、滑落、転落及び雪崩等による遭難事故が発生しています。

その九割が10代から20代の若者達で占められているのも特徴で、谷川岳の気象変化の激しさもあり、現在までに790余名の登山者が命を落としていたことから、谷川岳は「魔

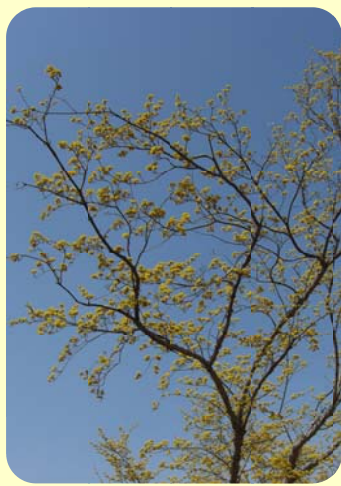
の山」とも言われています。

同時に、若者のチャレンジャー精神を刺激して止まない魅力あふれる山でもあります。

この谷川岳を管轄する利根沼田森林管理署では、谷川岳ロープウェイ、谷川岳登山指導センター、肩の小屋等の施設敷及び案内標識板等の敷地等を登山者や観光客の安全と便宜を図るため貸付しています。

また、8月から10月の金曜日を含む週末は、水上森林事務所を基地として、土合から天神尾根や一の倉沢の出会いまで、一般募集したグリーンパトロール隊員4名により、観光客や登山者に「手作りしおり」等を配りながら、谷川岳の自然の魅力のPR等もかねて森林環境美化の指導等を行っています。

今後も、「日本百名山」の一つである「谷川岳」を「国民の森林」として皆様に楽しんでもらえるよう努力していきたいと考えています。
（利根沼田森林管理署広報連絡官）



参加者募集

グリーンフェア2009

「みんなの未来のため、みんなでつくろう！森づくりシンポジウム」を開催しますので皆様の参加をお待ちしています。

実施日 平成21年4月25日（土）
実施場所 関東森林管理局
詳しくは左記にお電話を

関東森林管理局指導普及課
027・210・1175

お知らせ

下越森林管理署が新築されました。
住所・電話番号には変更がありません。

なお、同署の川東森林事務所が左記（同署）に移転しました。
新住所 ☎957・0052

新潟県新発田市大手町
4丁目4番15号

電話番号0254・22・9922
FAX 0254・22・9922

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL (027) 210・1158
FAX (027) 210・1159